



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

茨城県母親大会

日立に1000人がつどい

「生命を生み出す母親は、生命を育て生命を守ることをのぞみます」をスローガンに毎年話し合いと運動を重ねている茨城県母親大会が、8月27日、大甕の日立商業高校で開催されました。新しくきれいな校舎に1000名の参加者がつどいました。

午前中は子育て、教育、年金、農業、環境、料理など18の分科会で話し合い、交流が深められました。

全体会では、まず久慈中学校の生徒さんの「ロックソーラン」。アンコールもかかる熱演に参加者は元気をもらいました。そして、県立健康プラザ



応援談

都市に住む団塊世代の人たちを、地域として、どう迎えて活性化につなげるかをテーマにしたシンポジウムで、俳優の永島敏行さんが講演。住んでいる人が自分の街に誇りを持つことが大事と熱く語りました。

(8月30日、関南町の白浜会館)

管理者の大田仁史先生による講演は、「あなたもわたしも生涯現役、住民参加の介護予防」がテーマでした。軽妙な話しぶりで、人としての尊厳に配慮した介護のあり方が提示され、感銘をよびました。

「雨情の世界」分科会

分科会の一つ「野口雨情の世界」は、教室いっぱい参加者。直孫の野口不二子さんが助言者で、しみじみと歌うコーナーもあり、雨情や童謡に寄せる思いが語られました。



戦時中、軍歌をつくれとつめられても「絶対つづかない、撃つなら撃て」とはねのけたエピソードも紹介されました。

いま童謡があまり歌われなくなっている、子どもたちにもいい歌を広めてほしい、雨情が願った平和への思いを歌い繋いでいこうと、話し合いました。

国保運協

国民健康保険
運営協議会

開かる

今年第2回の国民健康保険運営協議会が8月29日に開かれました。

昨年17年度の国保特別会計は、歳入32億9513万円、歳出34億8070万円

で、1億8556万円の赤字。退職被保険者の黒字分を合わせ、2173万円の赤字となりました。これを18年度分から補填すること、今度の9月議会に提案

9月定例市議会の日程

- 9月7日(木) 本会議(議案説明など)
- 9月13日(水) 本会議(一般質問)
- 9月14日(木) 建設委員会(議案審議)
- 9月15日(金) 産業委員会(議案審議)
- 9月19日(火) 文教厚生委員会(議案審議)
- 9月20日(水) 総務委員会(議案審議)
- 9月21日(木) 決算特別委員会
- 9月22日(金) 決算特別委員会
- 9月26日(火) 本会議(採択など)

平成18年度第3回北茨城市議会定例会(9月議会)の会期日程は上記のとおりです。一般質問は9月13日の予定です。ご意見・要望をお寄せください。

されます。

また「保険財政共同安定化拠出金」として、10月から6ヶ月分で1億8996万円の支出が見込まれます。これは、国保を県単位での運営に移行していくための拠出とされています。国が果たすべき医療保険への責任が全うできるのか、たいへん疑問視されるシステムです。

今回の条例案には、出産一時金の30万円から35万円への増額が含まれています。いっぽう、70歳〜75歳の高額所得者(520万円以上)の医療費の自己負担を、2割から3割に上げる

ことも示されています。

議論では、乳幼児医療の助成が国・県・市と細分化されており、医療機関の事務が煩雑であることが指摘され、事務軽減はできないのか質問が出されました。

担当課によれば「過去に国が100%助成していたときには一本の制度であり、書類事務も面倒はなかったが、現在は助成するところがそれぞれで、事務処理が一本化できない」との答弁。子どもたちの健康に国が責任を負わない実態が手続き上からも浮き彫りになりました。